

平成 29 年度の教育活動等に関する学校評価

基本目標：1)保育内容の充実、2)大学・地域との連携、3)幼稚園運営の強化

九州女子大学附属自由ヶ丘幼稚園

No.	基本目標	[業務事業] 具体的施策	今年度の取組に対する自己評価	学校関係者の評価
1	保育内容の充実	[保育の質の向上] 計画的な研修の実施および参加	週案を毎週提出のうえ指導を行うことで、PDCA サイクルを確立し、保育の質の向上を図った。また全体研修会を計画とおり 4 回開催し、自己評価から明らかになった自己の課題の解決に向けて、個人テーマに沿った研修に参加することで保育力を高めた。	生活発表会の合奏の出来栄えや帰宅後の子どもとの会話等から、音楽研修の受講成果が感じられ、研修内容を日々の保育で実践されていると評価できる。受講された研修内容は学年だより等で知らせてほしい。
2		[思いやりの心の育ち] 園の望ましい幼児像に掲げている「やさしく思いやりのある子ども」を育てる読書活動の推進	蔵書点検を夏休み期間に実施し、昨年の記録を参考に図書カリキュラムを作成した。読み聞かせの実施については、当年度実施回数を 100 回に目標を設定し、毎月の保育において計画通り実施した。	目標を設定した読み聞かせの実施は、幼少期における豊かな感性づくりとして評価できる。さらに教員が行っている絵本の修理を園児と一緒に修理することで「心の育ち」に繋げることが期待できる。 今後、市立図書館を利用して、園行事への参加や保護者対象講習の講師派遣、図書館での体験保育等を実施し、小学校入学への接続を図る等、図書館を活用してほしい。
3	大学・地域との連携	[地域との交流促進] 行事を通じて地域との計画的な交流の実施	4 月に昨年度の計画を見直したうえで、より効果的な交流の在り方を検討し実施計画を立案した。年間行事としている 6 月の田植え、9 月の稲刈りおよび 12 月の餅つきについては、事前に実施計画を作成うえで実施し、実施後は反省会を開催して次年度の地域交流につなげていく。	田植えや稲刈り、餅つき等は毎年工夫が見られ、前回の反省が活かされていることがわかる。 3 園合同の田植えについては、園児の団体行動力にあわせた時間配分に見直す余地がある。今後、地域のイベントへの保護者の参加を促すことで、地域の活性化にも繋げてほしい。
4		[大学教員との連携による保育の質の向上] 体操教室（および英語教室）の実施	運動習慣基盤づくりの体操教室および集中力・表現力養成のリトミック教室を計画どおり週 1 回を基本に実施した。また、外部講師による英語教室を、年長・年中・年少を対象に月 2 回を基本に実施した。	正課のリトミック教室や体操教室、英語教室は園児が楽しみにしており、運動能力や語学力・表現力の養成として評価できる。 幼児期の個々の成長には違いがあるが、運動能力に関する目標を学期ごとに設定することで、縄跳びや跳び箱等の小学校における体育授業に繋げてほしい。

5	幼稚園運営の強化	[未就園児教室の充実] 入園希望者を絞り、スムーズな入園に繋げる	昨年度のプログラムを見直したうえで、平成 29 年度の年間スケジュールを作成した。実施したわくわく保育の様子(写真)はホームページに公開し、参加促進を図った。参加者の満足度向上および次回参加に繋がる新企画を課題として検討を重ねながら、保育に反映させた。	わくわく保育のプログラムを見直し、参加人数を制限したことで以前より少人数になったが、子育て相談等で先生方と密に関わることができ、入園前に幼稚園の教育方針等を知る機会となっている。また毎年、きめ細やかに保育内容が企画されていて評価できる。
6	幼稚園運営の強化	[保護者に信頼される園づくり] ホームページにおける情報発信の充実	昨年度の反省に基づき、園の取り組み、お知らせ、保育の様子等について毎月ホームページの更新を実施し情報発信を行った。	ホームページでの情報発信により、子どもとの会話ではわからない園内教育の様子等を知ることができている。今後、月に 1 回の更新だけでなく、園行事の様子を終了後、速やかに掲載することで、より効果が期待できる。